

◆最近欧州事情

ス イ ス

スイスの地方自治

——ニートヴァルデン州民総会



一三州同盟 (1515年)

州民総会の会場からは、なお雷を戴くアルプスの山々とようやく緑燃えはじめた牧場のなだらかな斜面が四方に望まれる。四月の終りだというのに随分肌寒

い。三々五々集まった二千人ほどの州民のざわめきが急に静まる。いよいよ州民総

会のはじまりである。先ず、銃を担いだスイスの兵隊が二人入場して来る。永世中立を国是とするスイスでは、侵略に対して祖國を守る国防軍が充実され、その社会的地位も高い。国民皆兵制が採られているとともに兵役期間外でも、射撃訓練、武器の点検等が国民に義務付けられて

いる。この日は一〇名前後の兵士が派遣され、州民総会を警護する。

伝統的衣装で入口を固めるガード

つづいて中世風の紅白の装束の太刀持ち、その後の角笛吹きを露払いに、州政府の諸大臣、州議会議員、教会代表等が入場して来る。会場を埋めた約二千

人の州民は、拍手でこれを迎える。

一同着席。角笛の音がアルプスの山々にこだまする。州民総会の閉会である。司会は、州首相 J. Adenauer が勤める。議事に先立ち同首相の演説が行われる。

来賓の連邦代表、他の州の代表(毎年順番に一つの州の代表を招待するのだそうである)、国防軍の代表に対して歓迎の意を表し、州民にこれらの人々を紹介する。つづいて、この一年間を振り返り、同州にかかわりのある諸情勢の経過が述べられる。話題は、失業問題、環境問題(特に森の保護)から国民経済全般に及ぶ。典型的「スイス・ドイツ語」で話されているということもあり、非常に聞きとりにくい。正確なことは、とてもわからない。同行の州職員ルーフ嬢がいろいろと説明してくれる。

州首相の冒頭演説が終り、教会代表の坊さんらしき人がマイクの前に立つて、この州民総会の意義等について述べた後、「神がこの集会に加護されたまわんことを」というようなことを言うと、会場の州民全員から一斉に「アーメン」という声が唱和される。「神の前に平等、自由」である神の子が自らの共同体の重要事項をこれから取り決めるんだという厳肅な宗教的雰囲気があたりに流れた。

一 森林三州

チューリッヒの南に「四森林州湖」(Ewäldstätter See)と云う美しい湖があり、その名は、まわりをルツェルン、ウーリ、シュヴィーツ、ウンターヴァルデン



角笛を先頭に堂々の入場

の四州に取り囲まれていることに由来する。なかでも、ルツェルンは、名所旧跡も多く、スイスのドイツ語圏の町の中で最も観光客に人気がある町だといわれている。この町の発展は、一二世紀末サンニゴタール峠が開通してイタリアとライン川沿岸地域との通商路が確立した時からにはじまった。即ち、イタリア側から峠を越えて来た物資は、四森林州湖の南で舟に積まれ、同湖の北に位置するルツェルンで荷上げされ、そこからバーゼル方面へと向ったのである。

同じ頃、この四州のうちルツェルン以外の三州(といっても、当時は谷間の村落共同体という程度のものであったが)は、同じくスイスの北部に興り、勢力を拡大しつ

カントンと人口

カントン名	1983年初頭の人口数
チューリヒ	1,128,000
ベルン	919,300
ルツェルン	298,800
ウーリ	33,700
シュヴィーツ	98,700
オブヴァールデン	26,700
ニートヴァールデン	29,300
グラールス	36,200
ツーク	77,200
フリブール	187,600
ゾーロトゥルン	218,000
バーゼル・シュタット	201,200
バーゼル・ラント	221,200
シャッハウゼン	69,800
アペンツェル・アウサーローデン	48,400
アペンツェル・インナーローデン	12,900
ザンクト・ガレン	394,600
グラウビュンデン	171,000
アールガウ	459,100
トウーリガウ	136,600
ティチーノ	271,300
ヴァウリス/ヴァレ	532,600
シュンテール	224,600
グリュネン	156,100
ソビサ	356,000
ジュラ	64,500
スイス全土	6,423,400

つあつたハプスブルグ家に対抗して自らの伝統的な権利(自決権と固有の司法権)を守るため密約同盟を結んだ。一三九一年八月一日のことである。これがスイス連邦のはじまりであり、今日でも、八月一日は、スイスの建国記念日とされている。スイスという名(ドイツ語でシュヴァイツ Schwaiz)の由来となった上記シュヴァイツ Schwyz にある連邦歴史公文書館 Bundesarchiv では、今でもこの歴史的な盟約書の原物を見ることができ

その後、この三州は、封建領主との戦いを通じて他の谷間の共同体や都市との同盟の輪を広げ、一六世紀初頭には一三の州(カントン)の同盟になった。その後、単一国家であるヘルヴェティア共和国が一時誕生するなどの曲折もあつたが、結局連邦主義の伝統は堅持され、一八四八年憲法によって連邦国家スイスが創設されて今日に至っているのである。

今、州民総会は、この伝統ある森林三州の一つであるウンターヴァールデンを構成する二つの半カントンの一つ、人口約三万人のニートヴァールデンで行われている。同州の州都シュタンスの町はずれで

ある。スイスの市町村の住民総会は世界的に有名であるが、州で今日なお州民総会を開催するのは、ニートヴァールデンはか四つの小カントンに限られている。州民総会は、毎年四月末(又は五月初め)の日曜日に行われる。「州民総会は、単に偉大なる伝統を大事にしている」という意識の結果であるというにとどまらず、今日においてもなお、このような住民と政府との間の直接の討論という原初的形式によって民主主義的決定が可能であるとそう確信から来ている」(ニートヴァールデン)一九八五年州政府)のである。

二 スイスの連邦制

スイス連邦は、現在二六の主権を有する州 Canton で構成されている。正確には、二、三のカントンであり、うち三つはさらに半カントンに二分されている。各州は、政府、議会、裁判所等完全な国家機能を有している。たとえば、いくつかの州では、自らを「共和国及びカントン○○」と称している。各州は、いわば「行動する連邦主義」によって自らの独立性の確保と連邦に対する自己の存在の確立に努めているのである。「連邦主義」

ことを意味している。スイスの特徴をなす政治的メルクマールは有名な直接民主制と連邦国家体制、この二本の柱である。

スイスは、今注目されている。あれほどの急峻な山岳地帯に位置しながら、世界でも有数の一人当たり国民所得(一九八二年の一人当たりGNPは日本一〇・〇八〇ドルに対して、スイス一七・〇一ドル)を享受し、その低い失業率(一九八三年〇・九%)は、各国の羨望の的となっているのである。この要因としては、スイス人の勤勉性、平穏な労働関係、世界的に有名な銀行、観光、精密工業の存在等諸種の条件が掲げられようが、やはり、この強烈な地方分権体制、住民自治の考え方が、時間がかかるようでも結局は、住民自らの生活レベルの向上、福祉の充実となって実を結んでいるものと評価しえよう。経済発展のためには「能率的な」中央集権体制が不可欠だと考えている人には、驚異的な事実である。

とは、連邦よりも州又は市町村でできるだけの多くの事項についての決定がなされるべきであるという

- 連邦と州との間の事務分担は次のとおりである。
- (1) 連邦が専属的立法権を有し、これを執行する分野 関税制度、貨幣制度、郵便電信電話制度、鉄道、船舶航行等の分野である。
 - (2) 州が専属的権限を有する分野 例えは、警察、救済制度、社会住宅建設、教会制度等の分野がこれに該当する。

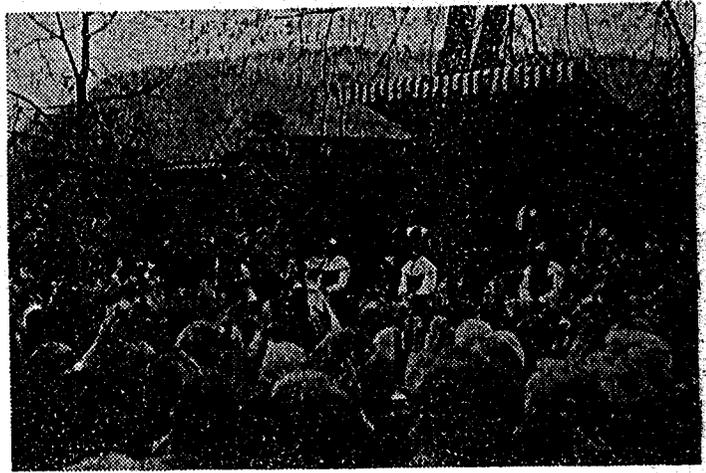
また、最近においては、連邦主義強化の観点から連邦と州の関係を直直そうとの動きが強まっている。この際、スイスの市民は、今まで連邦の手で行われてきた事項をもう一度自らの手に取り戻し自



伝統的の衣装で参加し九一州民

- (3) 立法が連邦により、その執行が州により行われる分野 度量衡制度、道路交通、軍隊組織、労働政策、社会保険、民法及び刑法等の分野である。
 - (4) 立法権限等を連邦と州で分割しているもの 税、道路建設、狩猟漁業、健康保険、教育等の分野がこれに該当する。
- 例えば、小学校、中学校、ギムナジウムは、州の事項である。そこで、これらの制度は州ごとに異なっている。一九七〇年代にせめて学校の始期、義務教育年限、就学年齢及び基本的教材について最低限の統一をもたらし、連邦憲法の改正が提案されたが、州の反対によって否決され、今日まで実現に至っていない。

また、最近においては、連邦主義強化の観点から連邦と州の関係を直直そうとの動きが強まっている。この際、スイスの市民は、今まで連邦の手で行われてきた事項をもう一度自らの手に取り戻し自



「賛成のかたは、手を高くあげて下さい」

なくこれも可決。

(4) 環境保護法制定

一九八三年一〇月の連邦環境保護法を受けて当該法律の施行(これは依然として州の事務である)等について定めるものである。核燃料再処理工場の立地をめぐる議論があるように閉っていたので何かあるかと思っていたが、結局これも特段の論議なく可決された。

(5) 州及び市町村税法

この法律案だけは、政府参事会の構成員ではなく、州議会の議長が提案説明をした。主な改正点は、共稼ぎ夫婦に対する減税、所得税に係る物価スライド減税制度の創設、職場の老齢・遺族・障害積立金控除等であった。約三〇〇頁にわたる所得税の税率表をつけて提案される。一人の若い州民がマイクの前に立ち、誰がどうなるのかももう少し具体的に説明するよう求めたが、これに対して一般的な答弁が行われただけで特段の混乱もなく可決された。

(6) 土地購入

州立発電所が州議会の承認を得て新しい建物を建てるので旧建物の敷地が不要となった。州政府参事会と州議会は、これを二百万スイスフラン(約二億円)で購入、将来の州立古文書館及び図書館の用地としたい意向であり、州民総会の議決を求めたものである。問題なく可決。

(7) 健康保険組合に対する助成

この提案は、活動的市民 Aktive Bürger 二名からなされたものである。同州憲法によれば法律の制定改廃及び財政決議については、州民は離れても、提案をすることができ、内容は、州から同州健康保険組合への助成金——組合員一人当たり現行一スイスフランを五スイスフランに引き上げ、家計の負担を軽減しようとするものであった。

これに対しては、賛成、反対の発言がそれぞれ二―三人の人から(反対は州政府及び州議会議員から)行われたが、結局、挙手の結果、否決された。

正午に始まった州民総会は、このようにして坦々と進行、午後二時過ぎに解散となったのである。

四 アマンマール

州民総会を終えた政府参事会議員、州議会議員等は、総会のはじまる前と同様に、再度シュタンス町内にある教会に行ってお祈りをすませる。一般州民は、総会会場の近くに設けられた出店でビールなどを飲んでゐる。半分お祭り気分である。

同行のルーフ嶺から午後三時に「アマンマール Ammannal」が始まり、筆者も州政府から正式に招待されていると聞かされる。アマンマールというのは、「州首相の食事」というような意味で、州首相が政府要員、州議会議員、来賓客等を招待するものである。あまりいい席とはいえなかったが由緒ありげな町のレストランに招待された。コースの料理で、メインは、牛の巻き肉料理であっ

た。ルーフ嶺が昨日それに決めたんだというである。そのうち州議会議員だというルーフ嶺の父親が現われて、「今日は本当にうまく行ってよかった、よかった」と言う。内ポケットを示しながら、ある法律案に対して一般州民から反対意見が出た場合に、それにさらに反対する演説原稿を二つも用意してあったのだそうである。しかし、結局反対意見は出なかった。「隣りのオブツアルデンでは、我々が州民総会を終った時点で未だ選挙も終わっていない。こちらは、本当にスムーズにいったよかった。」

洋の東西を問わず、政府筋の考えることとその苦勞は同じだなど若干の共感を覚えつつも、やや物足りない気分が生温くなったワインを飲み干した。

(片木 淳 大阪市経済局参事 西ドイツ在勤)

議会の権限 (改訂版)

檜垣正己著 地方自治新書⑧

地方議会の諸権限の意義・手続・効果・限界等を体系的に詳述し、議員始め関係者に有効な権限の行使と適切な議会活動の保障を訴えた好著。

新書判 定価七八〇円(二二五〇)

良書普及会